

文部科学省と国立大学附置研究所・センター 個別定例ランチミーティング

第124回 東京大学 社会科学研究所 (2025.7.25)

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 12:05 – 12:10(5分) | : 研究所・センターの概要
(所長 宇野重規) |
| 12:10 – 12:25(15分) | : 若手研究者からのプレゼン
(教授 永吉希久子) |
| 12:25 – 12:45(20分) | : 質疑応答 |

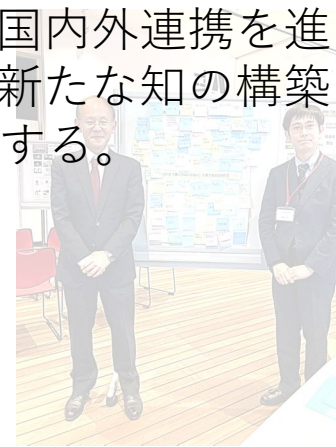
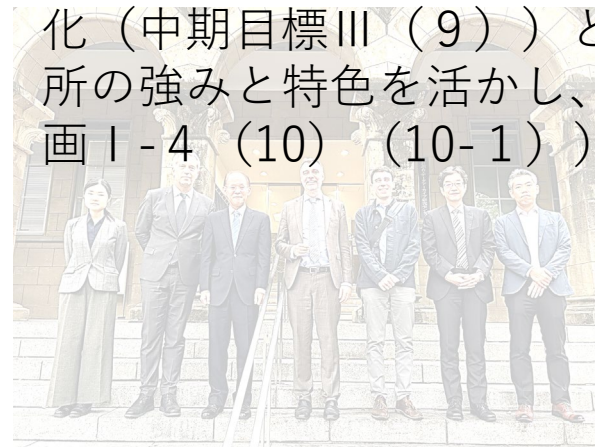
【お願い】

- ☆担当研究所・センターを「共同ホスト」として設定いたしますので、司会進行をお願いします
- ☆録音等される場合は「コンピュータ上に保存」をお願いします（当方では録音等していません）
- ☆青字部分を削除してください

「社研」のミッション



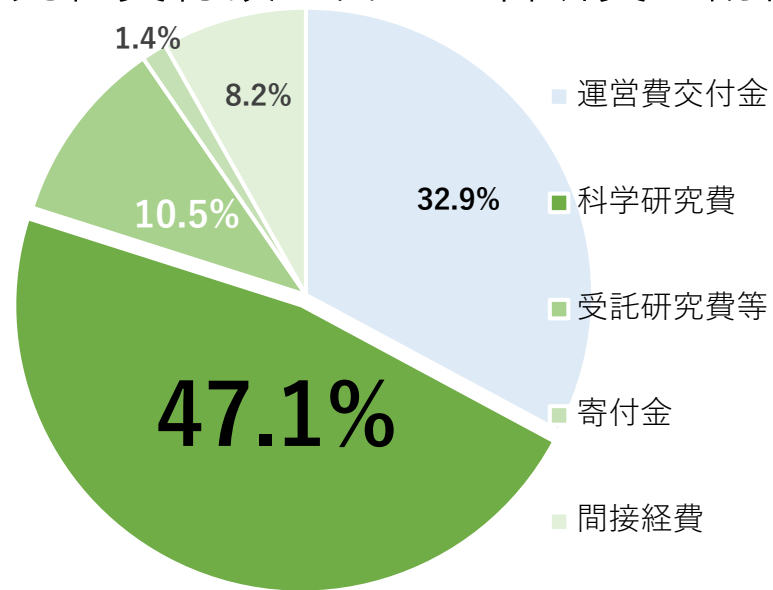
- 法・政治・経済・社会学を統合した「社会科学の総合知」により、現代社会の課題に取り組み、世界最高水準の研究を推進（中期目標前文1）し、基礎研究の卓越性と多様性を強化（中期目標Ⅰ-4（10））する。
- 附属社会調査・データアーカイブ研究センターを中心にデータ基盤を整備し、創出される膨大な知的資産が有する潜在的可能性を見極め、その価値を社会に対して積極的に発信（中期目標Ⅰ-1（2））する。
- 研究成果を地域や政策に活かし、国際連携を通じて日本研究のハブ機関として機能。若手研究者の育成にも注力する。
- 優秀な人材を集め（中期計画3（8-3））、財源の多元化（中期目標Ⅲ（9））と国内外連携を進める。附置研究所の強みと特色を活かし、新たな知の構築に貢献（中期計画Ⅰ-4（10）（10-1））する。



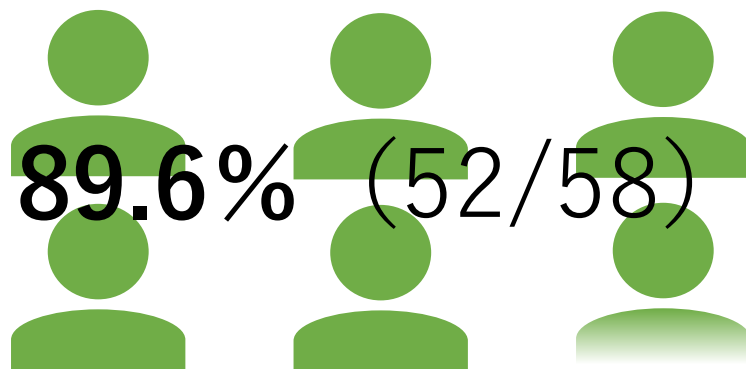
数字でみる「社研」

※特記のないものは2024年度実績

研究経費総額に占める科研費の割合



科研費を取得している所員の割合



研究職として就職した若手研究者数* (2003年度～2024年度)

128名

*任期付き准教授・助教・特任助教・短時間勤務有期雇用教職員

研究成果の公表 *2024年単年実績



40冊*



63本*

(国際共著11本)



11件



89件

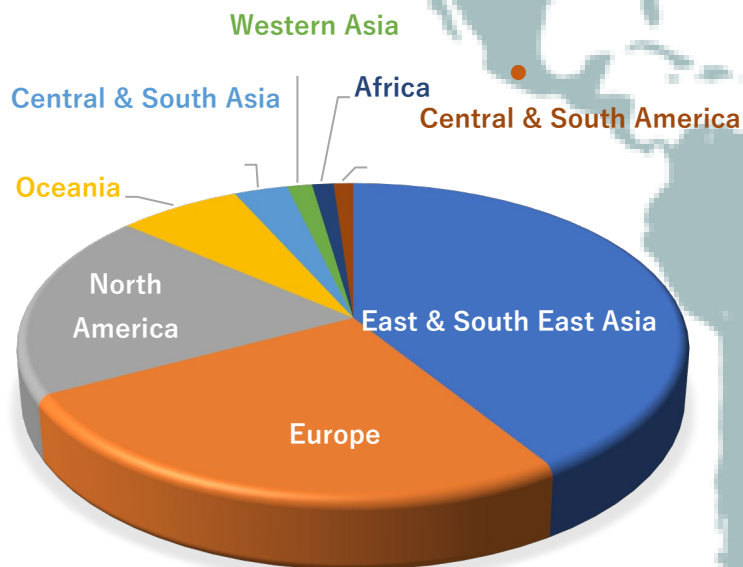
研究所公認のグループ共同研究

6

- マイノリティの雇用と不平等に関する研究会
- 教育経済学研究会
- 21世紀のリベラリズム
- 希望学（「希望の社会科学」）
- 近代日本史研究会
- 産業組織研究会

「社研」の国際展開 (2022年度～2024年度実績)

- 国際交流協定
- 公式訪問を受けた機関
- 海外共同研究者助成制度利用者本務先
- 客員研究員本務先



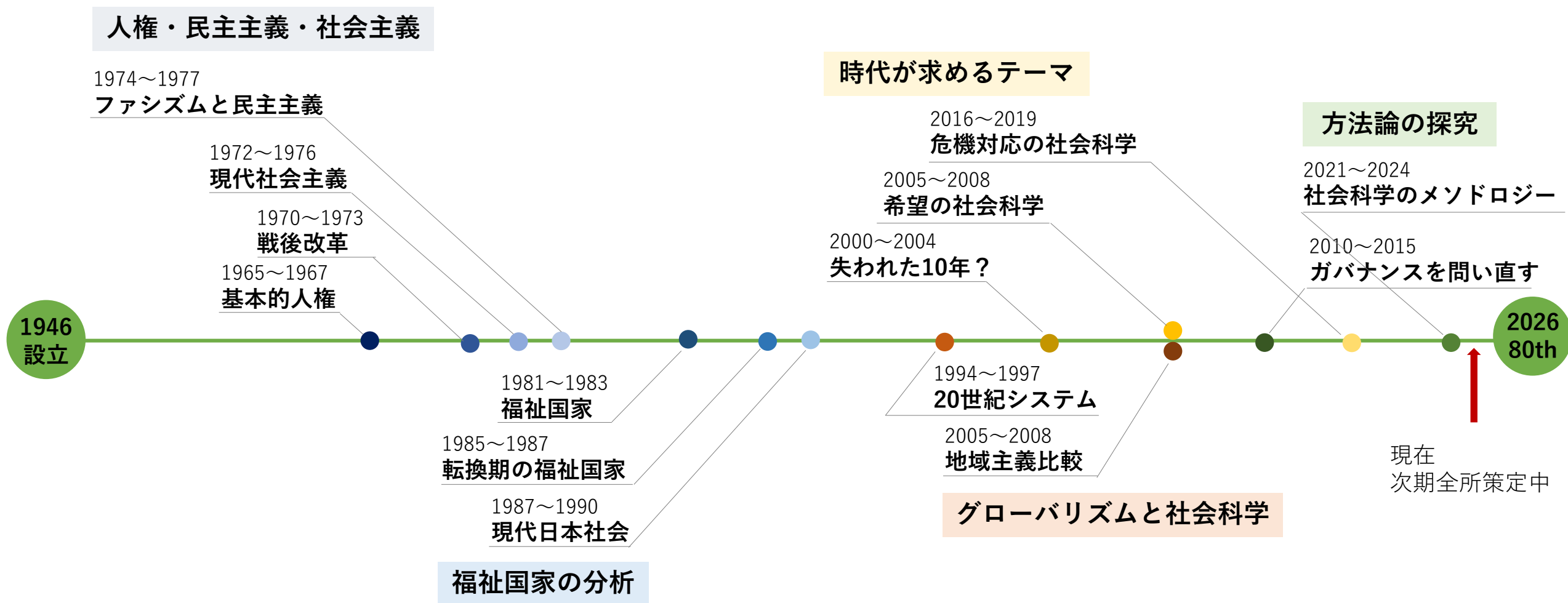
SSJJウェブサイト訪問者エリア別比率



Oxford Univ. Press
*Social Science
Japan Journal (SSJJ)*

「全所的プロジェクト研究（全所）」

日本と世界が直面している重要課題を研究テーマとして設定。学内外の多くの研究者や実践家等の参加を得て、3年から5年程度の研究期間をかけて研究を進め、成果を刊行。



西暦は研究期間のみを表す。多くのプロジェクトは、その前後に準備期間、執筆期間がある。

全所的プロジェクト研究「社会科学のメソドロロジー」

測ることに着目した全所的プロジェクト研究

事象のみならず主観的な価値や選好を
いかに「測る」かに注目

多様な価値を可視化して
社会状況の理解に資する

社会をデザインするための新たな概念

「社会科学のメソドロロジー」5本の柱と研究テーマの一例

社会科学の新分野の開拓

「自然」と「社会」を
分離して捉える
べきか

思想と歴史

法学の方法

「望ましさ」を
判断する基準とは

「国益」という言葉
をいかに語るか

社会科学の
哲学

統計的因果推論の
歴史的・哲学的
背景

精神的損害は
測れるか

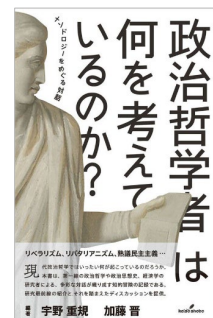
測ることの
社会科学

COVID-19と
社会科学

パンデミックは
社会科学に新たな
概念をもたらすのか

研究成果を書籍として刊行

社会への普及



「社会科学のメソドロロジー」基本情報
(研究期間 2021年度～2024年度)

- メンバー 54名
*学内参加教員所属部局
法学政治学研究科
人文社会系研究科
経済学研究科
総合文化研究科
空間情報科学研究センター
- 活動実績
書籍 5冊
論文 52本
ワークショップ 40回
国際シンポジウム 1回
研究会 68回